



鈴木重幸先生

略年譜

- 一九三〇年 五月 東京に生まれる
- 一九四九年 三月 東京都立西高等学校卒業
- 一九五三年 三月 東京大学文学部卒業
- 一九五六年 三月 東京大学大学院修士課程修了
- 一九五六年 一月 言語学研究会発足とともに会員、現在にいたる
- 一九六〇年 四月 国立国語研究所員
- 一九六八年 四月 横浜国立大学教育学部助教授
- 一九七六年 四月 横浜国立大学教育学部教授
- 一九九六年 三月 横浜国立大学定年退職（予定）

鈴木重幸教授研究業績目録

I 著 書

(書 名)

日本語文法・形態論
 文法と文法指導
 形態論・序説(予定)
 (共著)

(発行年月)

一九七二—一五
 一九七二—一二
 一九九六—三

(出版社)

むぎ書房
 むぎ書房
 むぎ書房

(備 考)

*印をつけた論文をおさめる
 **印をつけた論文、講演資料をおさめる

話しことばの文型(2)

一九六三—三

秀英出版

国立国語研究所報告23 (大石初太郎、南不二男、宮

—— 独話資料による研究 ——

一九六三—一二

むぎ書房

地裕と共著)

文法教育——その内容と方法——

一九六三—一二

むぎ書房

教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著(坂

語彙教育——その内容と方法——

一九六四—一二

むぎ書房

教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著(坂

本英子、鈴木康之、高木一彦、宮島達夫と共著)

II 論 文

*学校文法批判——動詞論を中心として——

一九五四—八

民主主義科学者協会・言語部会監修『理論別冊——国語問題の現

代的展開——』(理論社)

文法

一九五四—一一

日本コトバの会編『教師のための国語科』(河出書房)の〈第五

章〉(野村篤司と共同執筆)

*ことばと文字

一九五六—一二

大島義夫編『講座日本語I 民族とことば』(大月書店)

日本語の動詞のすがた(アスペクト)について

一九五七—一一

言語学研究会報告プリント(金田一春彦編一九七六『日本語動詞

て——～スルの形と～シテイルの形——

日本語の動詞のとき(テンス)とすがた(ア

スペクト)——～シタと～シテイタ——

* わから書きと文法

* 文法教育をすすめるために

* 首里方言の動詞のいいきりの形

* 文字の表音性と表意性

文の理解と文章のくみため

放送のことばの研究(2) 文の構造

文法教育の今日の段階

* 主語

* 現代かなづかいの意義

* 現代日本語の動詞のテンス

の「アスペクト」むぎ書房 所収)

言語学研究会報告プリント(金田一春彦編一九七六『日本語動詞

のアスペクト』むぎ書房 所収)

『統日本文法講座2 表記編』(明治書院)

『教育』7月号(奥田靖雄・国分一太郎編一九六三『読み方教育

の理論』国土社(一九七四からむぎ書房)再録)

『国語学』41(外間守善編一九七二『沖繩文化論叢 言語編』平

凡社、および服部四郎ほか編一九七九『日本の言語学 四卷

文法II』大修館 再録)

『言語生活』10月号(野元菊雄編一九六八『ことばの生活4 こ

とばと社会』筑摩書房、および鈴木康之編一九七七—一二『国

語国字問題の理論』むぎ書房 再録)

『教育』12月号(野村篤司と共同執筆、奥田靖雄・国分一太郎編

一九六三『読み方教育の理論』国土社(一九七四からむぎ書房)

再録)

NHK放送文化研究所『文研月報』11号

『教育』11月号(奥田靖雄・国分一太郎編一九六四『国語教育の

理論』むぎ書房 再録)

森岡健二ほか編『講座現代語六卷 口語文法の問題点』(明治書

院)

『言語生活』2月号(鈴木康之編一九七七—一二『国語国字問題

の理論』むぎ書房 再録)

国立国語研究所論集『ことばの研究2』(秀英出版)

——言いきりの述語に使われたばあい——

* 文法について (上) (中) (下)

* 学校文法批判——「文節」について——

一九六五—八、一二、一九六六—三 『教育国語』 2、3、4
 一九六六—九 『教育国語』 6 (奥田靖雄・国分一太郎編一九六六『統国語教育の理論』むぎ書房 再録)

* なぜ文法を教えるか

日本語文法・形態論(1)(2)(3)(4)(5)(6)

——『にっぽんご 4の上』の解説——

* 現代文法・文論

一九六七—六 『教育国語』 9
 一九六八—三、六、九、一二、一九六九—三、六 『教育国語』 12、13、14、15、16、17
 森岡健二ほか編『講座正しい日本語 第五巻 文法編』(明治書院)

* 統・学校文法批判

——文節による文の分析について——

標準語論おぼえがき

* 四段活用論の成立

一九七一—六 『教育国語』 25
 一九七二—九 『教育国語』 30
 一九七五—三 『教育国語』 40 (松本泰丈編一九七八『日本語研究の方法』むぎ書房 再録)

主語論の問題点

** 構文論における形態素主義について

明治以後の四段活用論(一)

一九七五—三 『言語』 3月号
 一九七五—一〇 『横浜国立大学人文紀要Ⅱ』 22
 一九七六—三 『教育国語』 44 (つづきをかきくわえて、松本泰丈編一九七八『日本語研究の方法』むぎ書房 所収)

日本語動詞の時について

** 『日本語文法・形態論』の問題点

** 明治以後の四段活用論

** 現代日本語の動詞のテンス

——終止的な述語につかわれた完成相の叙

一九七六—一二 『言語』 12月号
 一九七七—一二 『教育国語』 51
 一九七八—一〇 松本泰丈編一九七八『日本語研究の方法』(むぎ書房)
 一九七九—一〇 言語学研究会編『言語の研究』(むぎ書房)

述法断定のばあい——

**動詞の「たちば」をめぐる

一九八〇—三

『教育国語』 60

**品詞をめぐる

一九八〇—九

『教育国語』 62

**動詞の形態論的な形の内部構造について

一九八三—三

『横浜国大国語研究』 1

**形態論的なカテゴリーについて

一九八三—三

『教育国語』 72

形態論的なカテゴリーとしてのアスペクトについて

一九八三—三

『金田一春彦博士古稀記念論文集 第一巻 国語学編』(三省堂)

て

国語審議会「改定現代仮名遣い(案)」について

一九八五—九

『教育国語』 82

て

**国語学と日本語学

一九八六—九

『教育国語』 86

動詞の活用形・活用表をめぐる

一九八九—八

言語学研究会編『ことばの科学』 2 (むぎ書房)

奥田靖雄の言語学

一九八九—一

言語学研究会編『ことばの科学』 3 (むぎ書房)

——とくに文法論をめぐる——

**文法について

一九九一—一〇

『教育国語』 2・3 (「文法とはなにか」と題をあらため、鈴木重幸一九九六(予定)再録)

主語論をめぐる

一九九二—一

言語学研究会編『ことばの科学』 5 (むぎ書房)

III 書評ほか

三上章著『象は鼻が長い』(紹介)

一九六一—三

『言語生活』 3月号

芳賀綾著『古典文法教室』(紹介)

一九六六—二

『言語生活』 2月号

森重敏著『日本文法——主語と述語——』を

一九六六—六

『国語学』 65

読んで(書評)

金田一春彦著『日本語音韻の研究』(書評)

一九六八—三

『国語と国文学』 3月号

41・42年における国語学界の展望 現代語

(学界展望)

一九六八—六

『国語学』 73

大久保忠利著『日本文法陳述論』を読んで

一九七〇—三

『国語学』 80

(書評)

渡辺実著『国語構文論』(書評)

一九七二—一二

『国語と国文学』 12月号

言語学の用語 膠着(用語解説)

一九七三—一二

『教育国語』 35

言語学の用語 パラデイクマチックな関係と

一九七四—六

『教育国語』 37

シntagマチックな関係(用語解説)

教育情報——日本文芸家協会の国語問題に関

一九七五—七

『教育』 7月号

する意見書について——

『ことばの科学 1』村上・佐藤論文によせ

一九八七—九

『教育国語』 90

て(1)

IV 学会講演

現代日本語の表記法における漢字の問題について

一九八七—一一

横浜国立大学国語国文学会(横浜国立大学国語の会と共催)講演

*言語の基本的な単位としての単語をめぐって

一九九四—六

資料 第108回日本言語学会大会(横浜国立大学で開催)公開講演資料

——日本語研究のたちばから——

一九九四—一一

横浜国立大学国語国文学会(横浜国立大学国語の会と共催)講演

言語の基本的な単位としての単語

一九九四—一一

資料 横浜国立大学国語国文学会(横浜国立大学国語の会と共催)講演

——国語教育と関連させて——

一九九四—一一

資料 横浜国立大学国語国文学会(横浜国立大学国語の会と共催)講演

*印は鈴木重幸一九七二『文法と文法指導』(むぎ書房)におさめる

**印は鈴木重幸一九九六(予定)『形態論・序説』(むぎ書房)におさめる